

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成30年2月22日 (2018.2.22)

【公開番号】特開2015-193812(P2015-193812A)

【公開日】平成27年11月5日 (2015.11.5)

【年通号数】公開・登録公報2015-068

【出願番号】特願2015-50263(P2015-50263)

【国際特許分類】

C 0 8 J 5/04 (2006.01)

C 0 8 L 81/02 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 K 7/02 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 5/04 C E Z

C 0 8 L 81/02

C 0 8 L 101/00

C 0 8 K 7/02

【手続補正書】

【提出日】平成30年1月10日 (2018.1.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

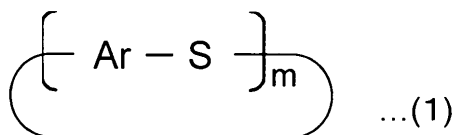
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 強化繊維に、(B) ポリエステル、ポリアミド、ポリカーボネート、ポリエーテルエーテルケトン、ポリエーテルケトンケトン、ポリエーテルイミド、ポリスルホン、ポリアリレートおよびポリフェニレンエーテルからなる群より選択される 1 種以上の熱可塑性樹脂および (C) 下記一般式 (1) で表される環状ポリアリーレンスルフィドを含む (D) 樹脂組成物を含浸してなる成形材料であって、前記成分 (A) ~ (C) の合計 100 重量部に対して、前記成分 (A) を 1 ~ 80 重量部含有し、前記成分 (B) と成分 (C) の比率 ((B) / (C)) = 10 / 90 ~ 40 / 60 (重量比) である成形材料。

【化 1】



(上記一般式 (1) 中、Ar はアリーレン基、m は 2 ~ 50 の範囲を表す。)

【請求項 2】

320 において、前記 (D) 樹脂組成物中の成分 (B) と (C) が相溶している請求項 1 に記載の成形材料。

【請求項 3】

前記成分 (B) の 320 における溶融粘度が 50 ~ 5000 Pa・s である請求項 1 または 2 に記載の成形材料。

【請求項 4】

前記成分（Ｂ）がポリエーテルケトンケトン、ポリエーテルイミド、ポリスルホン、ポリアリレート、ポリフェニレンエーテルからなる群より選択される１種以上の熱可塑性樹脂を含む請求項１～３いずれかに記載の成形材料。

【請求項５】

請求項１～４いずれかに記載の成形材料を２５０～４００ にて加熱することにより、成形材料に含まれる前記成分（Ｃ）を（Ｅ）ポリアリーレンスルフィドに転化する成形品の製造方法。

【請求項６】

前記成分（Ｂ）および成分（Ｅ）を含む（Ｆ）樹脂組成物が、前記成分（Ｂ）が海相、前記成分（Ｅ）が島相である海島構造を形成しており、島相同士粒子間距離が０．５～５μmである、請求項５に記載の成形品の製造方法。